

茶房おこばち

- 物件名：茶房おこばち
- 住所：色内1-12-4
- 電話：23-0222
- 所有者：野田寿一
- 運営者：野田寿一
- 人員：2人
- 建物履歴

大正後期 入船十字街付近にあった野田歯科医院（野田耕作）を現地に移転。
建物はもともとカフェとして建てられ、当時は割烹美姿の女給さんがダンスをしていた。

大正10年生まれの父豊夫は歯科医院を継承、平成18年まで診察、平成25年没。

平成19年 茶房おこばち開店



外観

■外観

妙見川（於古発川）沿いにひっそりと佇むが、小樽でも早い時期にカフェとして建設された洋風建築。

■内観

内観は経年の改築により、建物の年代を伝える箇所は少ないが、オーナー野田氏が子供時代に感じた見番通りの華やぎへの憧憬が、額に飾られた絵とともに伝わってくる。3階住居にはまだ漆喰壁が健在。

■内容

昭和20年代まで、見番がまだ建ち並び、柳並木も情緒を醸し、瀧之湯には夕方にもなると芸者さん方が頻繁に出入り。店は妙見橋と高島橋に挟まれ、妙見堂の祭りには、妙見橋の袂に仮設舞台（川床）がつくられ、芸者さん方がよく踊った。
こういう原風景を再現したく野田氏のライフワークとする。

■コンセプト

夫婦の第二の人生のステージ。野田氏の子供時代の小学校の教室をイメージ。

■客層

主に市内客。



アットホームな店内



御用商人出入り口の誘導板



野田寿一氏



3階自宅の台輪



大正15年の原風景



3階自宅の漆喰壁